

ひとはもっとシンボする。
まちはもっとシンボする。

3.11
SAPPORO
SYMP.

東日本大震災・福島第一原子力発電所事故から5年半

防災から「ひと」と「まち」がみえてくる

自助と共助と公助とわたし

直接被災をしていない多くのひとびとは、「起きた時」のことが災害の記憶として残ります。

でも、被災された多くの方々は、今もその災害とともにくらしています。

大切にしたいのは、そこから学び知り、これからにつなげていくこと。

災害に見舞われたとき、「わたし」を守る準備はできていますか？

「まち」が罹災すると、救助に来てくれる「ひと」も、避難所開設に奔走する「ひと」もそこに暮らす誰もが「被災をしたひと」になることを忘れないでください。

「誰かが何かをしてくれる」と思う前に

…まず自分や家族を守るすべを持つ「ひと」になる 一自助と

…そうして守られたひとりひとりができることを協力し、助けあう一共助を。

そして、日々の暮らしの中で「自助と共助」を培っていくことは

地域のつながりを深め、「まち」を育てることにもつながると思いませんか？

県外避難者を含めた避難者数
135,000人以上
札幌市南区の人口約140,000人 61,508世帯
2016年7月末現在

応急仮設住宅にこらす避難者数
約47,000人
留萌振興局8市町村の人口約48,000人

リレートーク 13:30~

1. 経験者のおはなし ~福島県南相馬市では~ 福島県北海道事務所 所長 長谷川守さん

福島県南相馬市は、東日本大震災で地震、津波、原発事故すべての被害を受けました。その南相馬市で、長谷川さんは2011年6月から約3年間、県職員として相双保健福祉事務所に勤務し、心のケアや住民の健康支援など保健福祉全般に関わる業務に携わりました。行政職員であり、被災者に近い立場から、震災当時のお話をうかがいます。

2. 現場を知るひとのおはなし ~熊本地震被災地と札幌市の災害・防災~ 札幌市危機管理対策室 防災推進担当係長 阿部賢二さん

今年4月に発生した熊本地震で、札幌市は被災地の避難所運営の支援などを行うために、危機管理対策室をはじめ、多くの職員を被災地に派遣しました。現地の様子と、現在想定されている札幌での災害（地震、土砂災害、洪水）、防災についてお話をうかがいます。

熊本地震から約5ヶ月
学校の体育館など
避難所にこらす避難者数
約1,000人
赤井川村の人口約1,100人
2016年8月現在

Do はぐゲームで避難所体験 14:30~

進行 北海道総務部危機対策局 主査 國田博之さん

ライブドローイング ESCS (NPO法人 江別における持続可能なコモンズのためのしくみ) 代表理事 林匡宏さん

2007年に静岡県が開発した避難所運営をみんなで考えるための防災ゲーム「避難所 HUG」の北海道版（厳冬期仕様）「Do はぐ」のシュミレーションを行い、運営経過がわかるようにライブドローイングによりイラスト化していきます。東日本大震災では、避難所に避難した車が整然と並ぶ光景を目にした方も多いでしょう。でも、真冬の北海道では、校庭に雪が積もり車は止められない…さあ、「わたし」は避難所へどうやって避難しますか？

会場でゲームが進行する様子を見ながら、避難所の1日を疑似体験し、わたしたちがもしものときにできること、日ごろから心得ておくことなどを学びます。